

普及活動情勢報告（令和５年１月分）

安芸農業振興センター農業改良普及課

人・農地プランから地域計画へ ～北川村農業委員会勉強会～



12月20日、北川村役場で農業委員14人を対象に地域計画作成に向けた勉強会を行いました。

農業改良普及課から、管内市町村の10年後の後継者未定農地の面積の状況や地域計画作成に向けて農業委員会に期待されている役割等について説明しました。

委員から地域計画策定の期限を確認されるなど、スケジュールを意識した質問や座談会への参加者数を心配する声がありました。

農業改良普及課は、今後、関係機関と連携しながら、より多くの人が参加し活発な意見交換がされるような座談会になるよう開催方法の工夫など支援をしていきます。

IoP クラウド SAWACHI の取り組みを共有



12月27日、安芸市連絡会においてIoPクラウド「SAWACHI」の説明会を開催し、安芸市役所、JAの職員9人が参加しました。

農業改良普及課は、高知県が運用するIoPクラウド「SAWACHI」の取り組みへの理解を深めるため、農家だけでなく市町村やJAの関係職員を対象に説明会を実施しています。

出席者からは、「農家の生産履歴が確認できるようにならないか」、「燃料の使用状況が把握できれば、経営指導につながる」などの意見が出されました。

農業改良普及課は、関係機関とともにデータ駆動型農業を推進します。

新規就農者の経営安定をサポート ～室戸市担い手支援協議会～



12月27日、JA、市、農業改良普及課室戸支所らで構成する室戸市担い手協議会は、ナスなどを生産する新規就農者3人を対象に目標の達成状況の確認と今作の栽培管理について話し合いました。

就農1年目のナス生産者からは、「加温機が設定どおりに作動しない」、「最初は家族の収穫作業が不慣れで時間を要した」といった声があったものの、11月末で年内の目標収量がクリアされていました。他生産者も計画の所得を概ね確保しており、今作も順調であることが確認できました。

室戸支所では、引き続き定期的な巡回等で新規就農者の早期経営安定を目指します。

データ駆動型農業の推進 ～SAWACHI AIカメラを新たにナス農家1戸に設置～



データ駆動型農業の実践による収量・品質の向上を目指して、農業改良普及課は、管内のナス農家10戸を対象に、花数・実数、葉面積を計測するAIカメラを設置して、令和4年10月から毎週の生育調査と合わせて、ナスの生育状況を把握しています。

「普及指導員の調査結果に加えて、葉面積や日射量のデータから、蒸散量や目安のかん水量を知れるなんてすごい」と話すのは、今年1月にAIカメラを設置した芸西地区の1戸の生産者。

今後、農業改良普及課は、生育調査結果やAIカメラ等から取得した情報から、研究機関と連携してSAWACHIでの生理生体情報の見える化画面や栽培指標を作成します。

農福連携高知県サミット in あき開催!!



1月12日、安芸市農福連携研究会主催で「農福連携高知県サミット in あき」を開催し、43人の参加がありました。農業改良普及課は研究会構成員として、事例発表農家の選定に関する助言やサミットの運営補助を行いました。

サミットでは、農福連携に取り組み、6次産業化や地域への推進活動に取り組む南国市の法人や安芸市の雇入れ農家、生きづらさを抱えながらも独立就農を果たした新規就農者の事例発表が行われ、参加者からは、「農業と福祉を結びつけるきっかけ作りが重要」といった声が聞かれました。

農業改良普及課では引き続き管内全域に農福連携が広がるよう農家向け研修会の開催や関係機関での連携等に取り組んでいきます。

なすマダムによる日本一のナス産地のPR



1月14日になすマダムが、東京シティ青果の事業の一環で冷凍王子として有名な冷凍生活アドバイザーの西川氏とコラボし、ナスの販路拡大に取り組みました。

なすマダムからは、「日頃からナスを観察して、しっかり管理しているから、きれいなナスができるということを知ってもらえて良かった。これからもこんな風には場から紹介できる機会があったらいいね。」との声がありました。

農業改良普及課は、事前打合せ時にナスの機能性成分のPRを提案したり、当日に動画の配信をしました。今後も消費地からのニーズに応じて、産地のPRを配信できるように支援していきます。

ユズの根が伸びやすい土壌環境を目指して～JAユズ新規就農者講習会～



1月18日、JA高知県安芸地区柚子部がJAあき支所で、「新規就農者講習会」を開催し、生産者20人が参加しました。

この講習会は、就農5年目までの生産者を対象に、年間5回開催しており、今回は「土づくり」をテーマに開催されました。

農業改良普及課は、目指すべき土壌環境や土壌改良資材の種類、ユズの生態に応じた土づくり等について指導しました。受講者からは、「水田転換園での土づくりの重要性が分かった」、「有機物の施用に取り組みたい」などの感想がありました。

農業改良普及課は、今後も講習会や現地検討会を通じて新規就農者の早期技術習得を支援していきます。